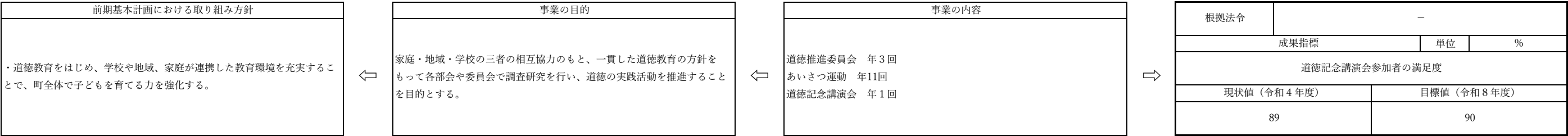


第4次久山町総合計画 前期基本計画対応 実施計画					分野		教育		政策	社会を生き抜く子どもを育てる	施策	①社会に必要な資質・能力の育成		
実施年度	令和	5	年度	予算科目	会計	款	項	目	継続	事業名	道徳教育推進事業	担当課	教育課	
					1	10	5	5				担当者	笠井 駿	

1. 事業概要



2. 実施内容（実績）

年度	令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度				令和8年度							
Plan (計画)	・道徳推進委員会を開催し、学校や地域、家庭が一体となった取り組みの確認を行い事業の推進を図る。 ・道徳記念講演会を開催する。				・道徳推進委員会において、道徳記念講演会の周知を行い、広く町民に参加を呼びかける。				・道徳推進委員会において、道徳記念講演会の周知を行い、広く町民に参加を呼びかける。															
Do (実行)	・道徳推進委員会を年3回開催し、各部会での取り組み内容の共有を行った。 ・道徳推進委員を中心にあいさつ運動を毎月実施した。 ・広報ひさやま道徳シリーズにおいて毎月道徳推進委員による啓発を行った。				・道徳記念講演会の周知を広報紙、町ホームページ、公式LINE、防災無線放送で幅広く行った。申込は定員一杯となった。 ・道徳推進委員会を年3回開催し、各部会での取り組み内容の共有を行った。 ・道徳推進委員を中心にあいさつ運動を毎月実施した。																			
活動実績	道徳推進委員会の開催回数				道徳推進委員会の開催回数				道徳推進委員会の開催回数															
	単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値	
	回		3		3		回		3		3													
	あいさつ運動の実施				あいさつ運動の実施				あいさつ運動の実施															
	単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値	
回		11		11		回		11		11								単位		目標値		実績値		
成果指標	道徳記念講演会参加者の満足度				道徳記念講演会参加者の満足度				道徳記念講演会参加者の満足度				道徳記念講演会参加者の満足度				道徳記念講演会参加者の満足度							
	単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値		単位		目標値		実績値	
	%		90		89		%		90		94		%		95				%		90			
Check (評価)	B	町の教育施策の4つの柱の一つである道徳教育であるため、新型コロナウイルス感染拡大もあるが、あいさつ運動やふれあい弁当の日など実施可能なことを実施した。 道徳記念講演会は感染対策を行い実施することができ、アンケートでも大変好評であった。 道徳カルタ大会はコロナの影響で開催できなかったが、今後についても継続して行っていく必要がある。 また、道徳教育が継続して取り組まれていることにより、福岡県が実施している「道徳教育に関する実態調査」では、小中学校とも県平均を上回る結果が出ていることから、必要性は非常に高い事業である。			B	町の教育施策の4つの柱の一つである道徳教育であるため、新型コロナウイルス感染拡大もあるが、あいさつ運動やふれあい弁当の日など実施可能なことを実施した。 道徳記念講演会は感染対策を行い実施することができ、アンケートでも大変好評であった。 道徳カルタ大会はコロナの影響で開催できなかったが、今後についても継続して行っていく必要がある。 また、道徳教育が継続して取り組まれていることにより、福岡県が実施している「道徳教育に関する実態調査」では、小中学校とも県平均を上回る結果が出ていることから、必要性は非常に高い事業である。																		
Action (改善)	40年以上の道徳活動を継続しようという町民や学校の意識が高い。道徳講演会などの講師選定にも推進委員会が積極的な関わり、著名人を呼んでいるがその費用対効果も高いと考えている。				40年以上の道徳活動を継続しようという町民や学校の意識が高い。道徳講演会などの講師選定にも推進委員会が積極的な関わり、著名人を呼んでいるがその費用対効果も高いと考えている。																			
事業費	予算			決算			予算			決算			予算			決算			予算			決算		
直接事業費（歳出）	1316	(千円)	1275	(千円)	1824	(千円)	1618	(千円)	595	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		
事業費財源	1316		1278		1824		1618		595		0		0		0		0		0		0			
	特定																							
	地方債																							
	一般	1316		1278		1824		1618		595														
人件費	157.96		134.44		125.7		125.3		139.76		0		0		0		0		0		0			
	人員数	0.02		0.02		0.02		0.02		0.0														
	人件費単価	7,898		6,722		6,285		6,265		6,988				7,768					7,768					
事業費合計	1,474		1,409		1,950		1,743		735		0		0		0		0		0		0			
町民一人あたりの負担額	159.450	円	152.471	円	209.375	円	187.210	円	78.905	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円		

令和5年度事務事業評価シート

事業番号	事業名
教育1-1-43	道徳教育推進事業

PLAN(計画)⇒DO(実施)については総合計画進捗管理票にて記載

CHECK(評価)

No. 1

自己評価	評価者	笠井 駿	5	大	←	小	→	1	2	3	4	5
1. そもそも必要な事業か？												
町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。											3	B
緊急性が高く、即時に実施しなければならない。											3	
実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。											4	
町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。											4	
評価理由 道徳推進運動の取り組みは45年以上継続しており、町のイメージとして定着しているため。												
2. 町が実施する必要があるか？												
町が実施主体となることが法令等により定められている。											-	A
公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。											5	
民間等や国・県で実施するよりも効果的である。											5	
民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。											4	
評価理由 道徳推進事業は、民間事業者で実施することはできず、町が実施する必要がある。												
3. 実施内容は適切か？												
①有効性												
久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。											5	B
事業の手法・活動内容は適切である。											3	
事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。											3	
評価理由 総合計画の「社会を生き抜く子どもを育てる」の実現に必須の事業である												
②効率性												
事業費に見合った成果を上げている。											4	B
外部委託等（指定管理者を含む）による効率化が図られている。											3	
実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。											3	
評価理由 道徳推進事業費の大半は講師に係る費用のため、費用対効果に見合った講師を選定する必要がある。												
③公平性・透明性												
受益者負担について課題はない。（または、受益者負担を求めることが適当でない。）											5	B
事業費に占める一般財源の額は妥当である。											3	
ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。											4	
評価理由 町単独事業であるため、事業費に占める一般財源の額は妥当である。情報発信については、広報ひさきや道徳シリーズにおいて各委員による道徳の啓発活動を行っている。												

今後の方向性	見直しの具体的内容
□ A重点化 ■ B現状のまま維持 □ C見直し □ D廃止 □ E事業完了	□ 実施方法の工夫 ■ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他

自己評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

これまでの道徳推進活動の取組の成果は、子どもたちの日頃の生活にみることができ、また福岡県が県内の小中学校に実施した調査においては、他地区の子ども達に比べ久山町の子も達は道徳心の高い子が多いという結果も出ている。久山町総合計画において道徳教育の推進が位置付けられており、主な事業（あいさつ運動やふれあい弁当、道徳記念講演会など）をコロナ禍で実施可能な範囲で行っている。

CHECK(評価)

自己評価を基に基本施策の進捗状況と照らし合わせて評価を行う。

No.2

一次評価	評価者	安部 憲一郎	6大→小1↓	
1. そもそも必要な事業か？				評価点 判定
町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。				4 B
緊急性が高く、即時に実施しなければならない。				3
実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。				4
町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。				4
評価理由				
子ども達の豊かな心を育む上で、道德教育は必要不可欠である				
2. 町が実施する必要があるか？				
町が実施主体となることが法令等により定められている。				-
公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。				5
民間等や国・県で実施するよりも効果的である。				5 A
民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。				4
評価理由				
教育にかかわる分野のため町で実施することが義務と考える				
3. 実施内容は適切か？				
(1)有効性				
久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。				5
事業の手法・活動内容は適切である。				3
事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。				4 B
評価理由				
総合計画の「社会を生き抜く子どもを育てる」の実現に必要な事業である				
(2)効率性				
事業費に見合った成果を上げている。				5
外部委託等（指定管理者を含む）による効率化が図られている。				3
実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。				3 B
評価理由				
道德推進事業費の大半は講師に係る費用のため、費用対効果に見合った講師を選定することができた。（来場者350名）				
(3)公平性・透明性				
受益者負担について課題はない。（または、受益者負担を求めることが適当でない。）				5
事業費に占める一般財源の額は妥当である。				4
ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。				4 A
評価理由				
広報紙において「道德シリーズ」の記事を掲載し道德の啓発活動を行っている。				

今後の方向性	見直しの具体的内容
□ A重点化 □ B現状のまま維持 □ C見直し □ D廃止 □ E事業完了	□ 実施方法の工夫 □ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他

一次評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

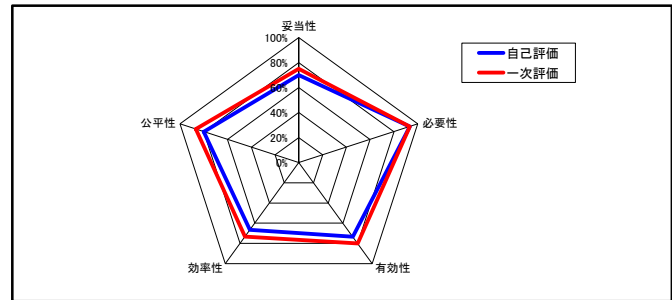
町の教育施策の4つの柱の一つである道德教育の推進事業の中で、あいさつ運動やふれあい弁当の日などを実施した。

道德記念講演会では多くの来場者に来ていただき(350名)実施することができ、アンケートでも大変好評であった。

道德力向上大会は5年ぶりに開催することができ、大いに盛り上がりを見ることができた。今後についても継続して行っていく必要がある。

また、道德教育が継続して取り組まれていることにより、福岡県が実施している「道德教育に関する実態調査」では、小中学校でも県平均を上回る結果が出ていることから、必要性が非常に高い事業である。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.3

二次評価	評価者	江上 智恵
■ A以下の点について、良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。		
■ B計画どおり、現状のまま事業を継続する。 40年以上の道徳活動を継続しようという町民や学校の意識が高い。道徳講演会などの講師選定にも推進委員会が積極的な関わり、著名人を呼んでいるがその費用対効果も高いと考えている。今後は新しい住民も増えているため、これまでの道徳教育を今にどう伝えていくかを考え、事業を推進していく必要がある。		
■ C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するための計画の見直しを行う。		
■ D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。		
■ E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。		
■ 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。		

外部評価委員会で
評価する。
月 日
開催予定

一次評価をやり直し、
月 日
までに提出すること。

- 評価終了
- 外部評価へ

ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.4

外部評価	今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの □ A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) □ B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) □ C見直し □ D廃止 □ E完了	□ 見直しの具体的内容 □ 実施方法の工夫 □ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他

経営者会議

経営者評価	
今後の方向性 - A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) - B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) - C見直し - D廃止 - E完了	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
評価 B	事業は、40年をこえる取り組みがあり、学校教育と社会教育の両面から様々な事業を実施しており、町の子育て、人づくりにおいて重要な事業である。 小中学生を対象に実施する道徳調査では、20項目あるほぼすべての内容で国や県の平均数値を毎年上回っていること、また生徒指導に関する問題が少なく小中学校とも落ち着いた教育環境にあるのは、ある意味この事業の成果だとも言える。 さまざまな取り組み一つひとつに長い歴史はあるが、今回ご指摘・評価をいただいたことに鑑み、各事業の目的、内容、実施の仕方などを再度協議し、現在の町の状況にあった実施の仕方等について検討していく。

令和7年度予算要求事項(今後の取り組み)

令和7年度もこれまで同様、道徳推進委員会を中心にあいさつ運動、ふれあい弁当などに取り組んでいく。講演会については、今大きな課題となっている防災の観点から道徳を考える講演会を計画し、より多くの層の町民に周知していく。評価については、県の実態調査の結果など、見直しを行っている。また、令和8年に道徳教育の取り組みをはじめ50周年を迎えるにあたり、節目の事業などについても考えていく。